

September 11, 2020

【前日の為替概況】ポンド、英国の通商合意なき EU 離脱懸念から全面安、1.2774ドル、135.58 円

10日のニューヨーク外国為替市場でポンドは全面安。欧州連合（EU）は、英政府に対して発効済みのEUとの離脱協定の一部を修正する内容を含む英国の国内市場法案を今月末までに撤回するよう要求した。一方、英政府は「議会には主権があり、国際条約に抵触する法律も可決できる」と反論。今日まで開かれていた自由貿易協定（FTA）交渉でも進展はなく、英国とEUとの交渉が決裂するとの懸念が高まった。市場では「英国とEUがFTAを締結できないまま、年末までの移行期間を終える可能性が現実味を帯びてきている」との声が聞かれた。ユーロポンドは0.9271ポンド、ポンドドルは1.2774ドル、ポンド円も135.58円と7月28日以来の安値を付けた。

ユーロドルは小幅続伸。終値は1.1815ドルと前営業日NY終値（1.1803ドル）と比べて0.0012ドル程度のユーロ高水準。欧州中央銀行（ECB）は、定例理事会を開き政策金利を現行の0.00%に据え置くと発表。市場予想通りの結果となった。ただ、ECB関係者の話として「ECBはユーロ高に過剰に反応する必要はないということで合意」と伝わると、全般ユーロ買いが先行。ラガルドECB総裁が理事会後の記者会見で「ユーロ相場のインフレへの影響を慎重に判断する」「ユーロの上昇については話し合った」としながらも、「ユーロ高に過剰反応する必要はない」「水準を目標（ターゲット）としていない」との考えを示すとユーロ買いが加速し、一時1.1917ドルまで上値を伸ばした。米国株の下落を受けてリスク・オフのドル買いも入り一時1.1810ドル付近まで下押しする場面があった。

ユーロ円も小幅続伸。終値は125.39円と前営業日NY終値（125.33円）と比べて6銭程度のユーロ高水準。ラガルドECB総裁の会見が「直近ユーロ高にもかかわらず、ECBはユーロ安につながる措置を取る可能性が低いことを示唆した」と受け止められ、ユーロ買いが先行。126.46円と日通し高値を付けた。ユーロドルの失速や米国株の下落に伴うリスク回避の円買いが入り一時125.32円付近まで押し戻された。

ドル円は小反落。終値は106.13円と前営業日NY終値（106.18円）と比べて5銭程度のドル安水準。ユーロドルが上昇したタイミングで一時105.98円と日通し安値を付けたものの、ポンドドルの急落を受けて円売り・ドル買いがじわりと強まると106.24円付近まで持ち直した。

【本日の東京為替見通し】ドル円、リスク回避地合いで上値が重い展開か

本日の東京外国為替市場のドル円は、リスクオフ地合い（NY株安、米10年債利回り低下、原油安）で上値が重い展開が予想される。

ドル円のテクニカルポイントは、一目均衡表・転換線106.07円（※過去9日間の高値・安値の中心値）、基準線106.08円（※過去26日間の高値・安値の中心値）に位置している。

注文状況は、上値には、106.30-40円、106.50-60円にドル売りオーダー、超えるとストップロス買いが控えている。下値には、105.75円にドル買いオーダー、割り込むとストップロス売りが控えている。

ドル円は、14日の自民党総裁選や年内解散・総選挙の可能性、15-16日の米連邦公開市場委員会（FOMC）への思惑から、動きづらい展開が予想される。

ポンドは、英国とEUが自由貿易協定を締結できないまま年末までの移行期間を終える可能性が現実味を帯びてきたことで全面安の展開となっている。9月8-10日に開催された英国と欧州連合（EU）の通商交渉第8ラウンドは、これまで通りに進展は見られず、ジョンソン英政権が提示した「EU離脱協定」を一部無効にする「国内市場法案」を巡って、英国とEUとの対立が激化している。欧州連合（EU）は、英政府に対して発効済みのEU離脱協定の一部を修正する内容を含む国内市場法案を今月末までに撤回するよう要求し、英政府は「議会には主権があり、国際条約に抵触する法律も可決できる」と反論している。

ジョンソン英首相は、10月15日を通商交渉の期限に設定し、10月15-16日に開催予定の臨時欧州連合（EU）首脳会議で最後の審判に臨むことになる。

ドル円に対しては、ポンド円の下落基調が円買い圧力となる可能性に要警戒となる。

ユーロドルは、欧州中央銀行（ECB）理事会で、ユーロドル上昇による物価押し下げに懸念が表明されず、ラガルド欧州中央銀行（ECB）総裁が、「ユーロ相場のインフレへの影響を慎重に判断する。ユーロの上昇については話し合った」としながらも、「ユーロ高に過剰反応する必要はない。水準を目標（ターゲット）としていない」と述べたことで、1.18ドル台で下げ渋る展開となっている。今後は、英国とEUとの対立激化懸念やユーロ圏の景況感指数、物価指数を見極めていくことになる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◇ 8月企業物価指数（予想：前月比 0.2%／前年比 0.6%）
- 08:50 ◇ 7-9 月期法人企業景気予測調査（予想：大企業全産業▲40.0／大企業製造業なし）

<海外>

- 15:00 ☆ 7月英国内総生産（GDP、予想：前月比 6.7%）
- 15:00 ◇ 7月英商品貿易収支／英貿易収支（予想：69.00 億ポンドの赤字／30.00 億ポンドの黒字）
- 15:00 ◎ 7月英鉱工業生産指数（予想：前月比 4.0%／前年比▲8.9%）
 - ◎ 製造業生産高（予想：前月比 5.0%）
- 15:00 ◎ 8月独消費者物価指数（CPI）改定値（予想：前月比▲0.1%／前年比横ばい）
- 15:00 ◇ 7月独卸売物価指数（WPI）
- 15:50 ◎ ビルロワ・フランス中銀総裁、講演
- 16:00 ◇ 7月トルコ経常収支（予想：20.0 億ドルの赤字）
- 17:00 ◎ バイトマン独連銀総裁、講演
- 17:50 ◎ シュナーベル欧州中央銀行（ECB）専務理事、講演
- 18:45 ◎ メルシュ ECB 専務理事、講演
- 20:00 ◇ 7月メキシコ鉱工業生産（季調済、予想：前月比 6.6%）
- 21:00 ◎ レーン ECB 専務理事兼チーフ・エコノミスト、オンラインイベントに参加
- 21:00 ◎ 7月インド鉱工業生産（予想：前年同月比▲11.5%）
- 21:30 ◇ 4-6 月期カナダ設備稼働率（予想：70.2%）
- 21:30 ☆ 8月米 CPI（予想：前月比 0.3%／前年比 1.2%）
 - ☆ エネルギーと食品を除くコア指数（予想：前月比 0.2%／前年比 1.6%）
- 12日 03:00 ◎ 8月米月次財政収支（予想：2450 億ドルの赤字）
- 欧州連合（EU）財務相理事会（非公式、12 日まで）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

10日 13:56 タイ中銀

「米ドル建ての金取引を許可することを検討」

10日 16:23 マーティン・アイルランド首相

「現時点ではブレグジット交渉が合意に達することに楽観的ではない」

「ジョンソン英首相に英国の動きに反対することを明らかにした」

10日 17:52 アストラゼネカ最高経営責任者(CEO)

「まだ年末までに新型コロナウィルス・ワクチンができることは可能」

10日 20:51 欧州中央銀行(ECB)声明

「パンデミック緊急資産購入プログラム(PEPP)を1.35兆ユーロで維持」

「PEPPは少なくとも2021年6月末まで継続」

「政策金利はインフレ目標に近づくまで現水準かそれ以下に」

10日 21:30 英首相報道官

「我々はEUと引き続き解決の道を探ることを模索している」

「英国がなぜセーフティーネットを導入しようとしているか、他国にも理解してもらうことを期待している」

「(国内市場法案)法案は可決すると思っている」

10日 21:40 ラガルド ECB 総裁

「データは強いリバウンドを示唆している」

「製造業は改善を続けている」

「必要に応じて全ての政策手段を調整する用意がある」

「ECBはユーロ相場のインフレへの影響を慎重に判断する」

「ユーロの上昇については話し合ったが、ECBは為替には目標(ターゲット)はない」

「ユーロを注意深く監視する必要がある」

「我々の使命は価格の安定」

「ユーロの上昇が価格に悪影響を与える、これについては広範囲で話し合った」

「パンデミック緊急購入プログラム(PEPP)の購入枠は、全てを使い切る公算が非常に大きい」

10日 21:47 欧州中央銀行(ECB)

「2020年 GDP 見通しは-8.0%(6月予測-8.7%)」

「2021年 GDP 見通しは+5.0%(6月予測+5.2%)」

「2022年 GDP 見通しは+3.2%(6月予測+3.3%)」

「2020年 HICP 見通しは+0.3%(6月予測+0.3%)」

「2021年 HICP 見通しは+1.0%(6月予測+0.8%)」

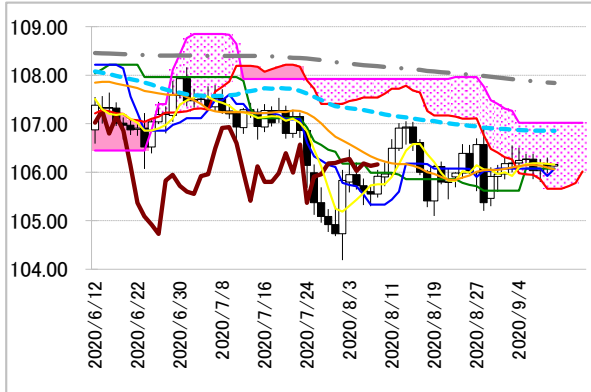
「2022年 HICP 見通しは+1.3%(6月予測+1.3%)」

11日 02:07 バルニエ英 EU 離脱・欧州委員会首席交渉官

「英との交渉、EUはあらゆるシナリオに対して準備を強化する」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

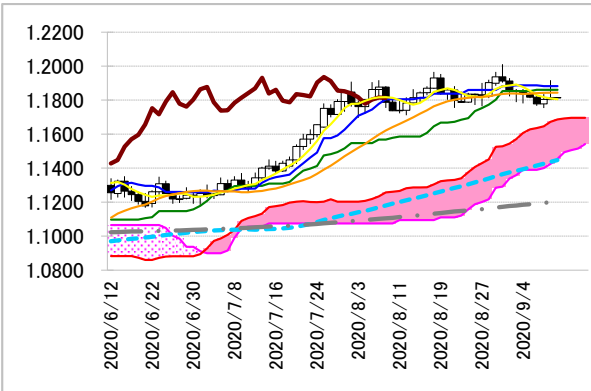


<ドル円=雲の上限を抵抗に売り戻りスタンス>

小陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の中で引けているものの、転換線を上回って引けていることで買いシグナルが優勢な展開となっている。しかし、8月28日の大陰線を上回ることが出来ないことで、続落の可能性が示唆されている。

本日は、雲の上限を抵抗に売り戻りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	107.02(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	106.13
サポート1	105.66(日足一目均衡表・雲の下限)
サポート2	105.20(8/28 安値)

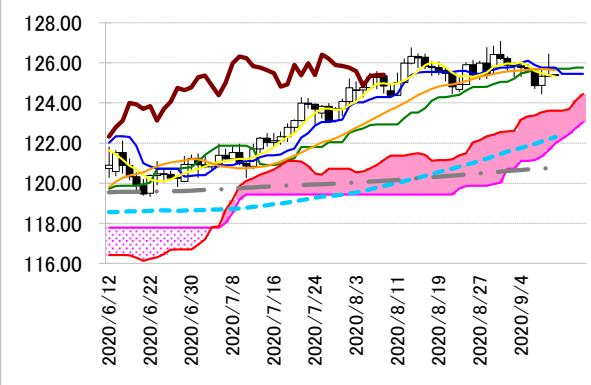


<ユーロドル=転換線を抵抗に売り戻りスタンス>

上影陽線引け。遅行スパンは実線を下回っているが、一目・転換線は基準線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、買いシグナルが優勢な展開。しかし、基準線と転換線を下回って引け、逆行現象でダブル・トップの可能性が高まっていることで、反落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に売り戻りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.1882(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1815
サポート1	1.1711(8/12 安値)

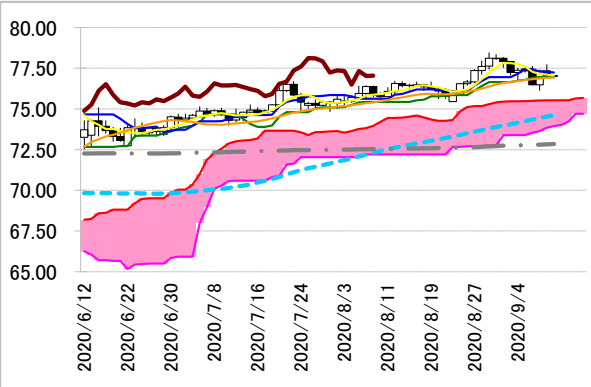


<ユーロ円=9/9 安値を支持に押し目買いスタンス>

小陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯している。しかし、9月14日には均衡表が逆転する可能性が高いことで要警戒か。

本日は、9月9日の安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	126.46(9/10 高値)
前日終値	125.39
サポート1	124.43(9/9 安値)



<豪ドル円=8/31 高値を抵抗に売り戻りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。しかし、孕み線で転換線を下回って引けており、続落の可能性が示唆されている。

本日は、8月31日の高値を抵抗に売り戻りスタンスで臨み、同水準を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	78.46(8/31 高値)
前日終値	77.03
サポート1	76.12(9/9 安値)

